

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：内相暗殺未遂事件に関する犯行声明

9月5日に発生した、ムハンマド・イブラーヒーム内相の車列に対する爆弾テロ事件について、シナイ半島を中心に活動するジハード主義組織、「エルサレムのアンサール団」（以下アンサール団）が8日、インターネット上で犯行声明を出した。以下は声明の要旨である。

- ・アンサール団の同胞が内相の治安部隊を自爆攻撃で破壊した。
- ・我々は、共和国防衛隊本部、ラービア・アダウィーヤ・モスク、ナフダ広場におけるムスリムに対する虐殺を行った者からムスリムを守るために、今回の攻撃を行った。
- ・我々は、イブラーヒーム内相を殺せなかったことをムスリム、特に殉教者の親族にお詫びする。今後、ムスリムを殺した者、とりわけシーシー国防相兼参謀総長とイブラーヒーム内相に復讐することを約束する。事実を歪め、国民の殺害を扇動したメディアに対しても報復する。
- ・エジプトのムスリムに、国防省および内務省の全建物から離れ、あなた方の命と所有物を守るよう呼びかける。あなた方の同胞であるムジャーヒドゥーンの周りに集まれ。

評価

エルサレムのアンサール団は、2012年頃からシナイ半島を中心に活動しているジハード主義組織で、エジプトーイスラエル間のガスパイプラインの爆破、イスラエル領へのロケット攻撃などを行ってきた。

声明文より、アンサール団は、軍および内務省が行ったムルスィー支持派の座り込み強制排除（8月14日）において多くの犠牲者が出たことを理由に、今次爆弾テロを行ったことが分かる。目的はイブラーヒーム内相の殺害であったが、同内相は助かった。暗殺未遂に終わったことを受け、アンサール団は、今後、同内相とシーシー国防相兼参謀総長を標的とすると述べた。また、国防省・内務省関連施設、暫定政権寄りのメディアをも攻撃対象とするとしている。なお、大統領を解任されたムルスィーやムスリム同胞団への言及がないことから、アンサール団は特にムルスィーの復権を要求していないと見られる。それは、同組織が民主主義を否定しており、民主主義によって政権に就いたムスリム同胞団は「神の道」から外れたイスラーム組織と見なしているからであろう。

8日付現地紙は、同事件を捜査中のエジプト治安当局筋の情報として、ムスリム同胞団とシナイ半島のテロ組織は密接な関係にあり、その中にはアンサール団も含まれると報道した。他方、5日、ムスリム同胞団幹部のアムル・ダラグ前国際協力相は爆弾テロ事件を非難するコメ

ントを発表している。イブラーヒーム内相の暗殺未遂事件により、今後、治安当局は、ムスリム同胞団とシナイ半島のテロ組織との関連性を明らかにする方向で捜査を進める可能性がある。こうした捜査は、逮捕された同胞団幹部の裁判にも影響を与えるだろう。

(金谷研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799